

令和6年度 保育実践報告書(職員自己評価)

1. 実施目的

本アンケートは、保育現場における子ども中心の保育の実践状況を把握し、今後の改善点を明確にすることを目的として実施した。

2. 実施内容

保育士を対象に、保育の各項目について「かなりできている」「できている」「あまりできていない」「ほとんどできていない」の4段階で自己評価を行い、自由記述にて課題や反省点を記入してもらった。

3. 集計結果の概要

3-1. 実践できている項目(評価が高かった項目)

- ・ 子どもの興味・関心を把握し、コーナーを設定している
- ・ 子どもとの信頼関係を築いている
- ・ 笑顔で子どもに対応している
- ・ 子どもの思いや考えを保育に生かしている
- ・ 流れる保育を取り入れている
- ・ サークルタイムで自由に話し合える雰囲気がある

3-2. 改善が必要な項目(評価が低かった項目)

- ・ 手作り玩具の提供と持続性
- ・ クールダウンスペースの設置
- ・ 一斉保育の進め方と年齢に応じた配慮
- ・ 禁止語の使用
- ・ 自分で考える場面の設定
- ・ 自立を促す掲示物や環境づくり

4. 自由記述から見た課題

| 課題 | 内容 |
|-------|------------------------------------|
| 手作り玩具 | 壊れやすく、修繕してもすぐ壊れる。忙しい時期に準備が疎かになる傾向。 |
| 環境設定 | 机上遊びが機能しない、クールダウンスペースが不足している。 |
| 一斉保育 | 年齢に応じた取り入れ方が難しく、競争を煽る言葉が使われる場面がある。 |
| 声かけ | 禁止語や急かす言葉が出てしまう場面がある。 |
| 自立支援 | 掲示物や動線の工夫が不十分で、自分で考える場面が少ない。 |

5. 今後の改善提案

5-1. 手作り玩具の質と持続性の向上

- ・ 丈夫で長持ちする素材選び
- ・ 子どもの発達段階に応じた設計
- ・ 忙しい時期でも継続できる制作スケジュールの工夫

5-2. 環境設定の見直し

- ・ クールダウンスペースの個別設置
- ・ 机上遊びのコーナーに保育士が関われる配置
- ・ 自立を促す動線と掲示物の工夫

5-3. 言葉かけの見直し

- ・ 禁止語や競争を煽る言葉の代替表現を共有
- ・ 保育士間で声かけの事例を振り返る時間を設ける

5-4. 一斉保育の段階的導入

- ・ 年齢ごとの発達に応じた一斉活動の内容と時間を調整
- ・ 子どもが主体的に参加できる工夫（選択制、役割分担など）

5-5. 子どもが自分で考えて行動できる環境づくり

- ・ 掲示物や道具の配置で「自分でできる」環境づくり
- ・ 自分で考える場面（選択、相談、発表）の意図的な設定

6. 今後の取り組み

- ・ 保育士間での定期的な振り返りと共有の場を設ける
- ・ 実践事例の記録と共有による保育の質の向上
- ・ 必要に応じて研修の実施（流れる保育・サークルタイム・言葉かけなど）